

課題	唐津市では人口減少や高齢化が進行し、自家用車の依存度向上。高齢者の運転免許証返納による交通不便が将来的にも課題であるとともに公共交通利用者数の減少に伴い、自治体の財政負担が増加。観光分野では、公共交通を活用した二次交通の充実が課題。観光客が自家用車なしで移動できる環境を整備するため、観光施設との連携や企画乗車券の導入が必要。観光地へのアクセス向上や観光客向けの情報提供を強化し、公共交通を利用した観光促進を図ることが必要。
プロジェクト概要	[交通サービスの高度化(マルチモーダルかつシームレスな移動体験の提供)] 昭和自動車、ドリームラインたかしまにstera transitを導入。乗車サービスの向上とMaaS基盤の構築を実施し、公共交通利用頻度の向上および事業者の持続性向上を図る 生活者向けサービスの向上 ・公共交通のキャッシュレス化 ・昭和自動車(からつ号)とドリームラインたかしまの連携サービス ・デジタル企画乗車券の造成および観光情報発信の拡大 [モビリティ・データの取得と活用] タッチ決済による交通利用と消費、観光活動をキャッシュレスデータから分析 [地域交通政策等との連携] 唐津地域公共交通計画では、地域間幹線と地域内支線を維持しつつ、デマンド交通や次世代モビリティサービスを導入することで、持続可能な移動サービスを実現することを目指すことが記載されており、本事業と合致する
効果	● 公共交通利用環境の向上。特に現金レスにより住民や高齢者がより簡単に利用可能 ● 過疎地域や交通空白地帯での移動手段確保の可能性拡大 ● 移動データと消費データの見える化による施策実行可能性の向上
事業の新規性	・stera transitのMaaSチケットにおいて、バスと離島船舶との連携を実施 ・福岡方面から観光客流入と唐津市内での消費活動、高島への移動が一元的に把握できるようになる ・また、キャッシュレス化の促進による利便性向上につながる対象者に対し、新規サービスの検討が容易になる

事業エリア/交通事業(予定)	事業エリア：唐津市 交通事業：昭和自動車、佐賀玄海漁業協同組合(ドリームラインたかしま)
MaaSアプリ等	stera transit、SMCC MaaSアプリ
データの活用等	■ データの取得方法：stera transit、Custella transit、JCB Data Driver ■ データの活用方法 目的:乗降データやユーザー属性・消費データの取得のため 使用するサービス:stera transit

